

勇気りんりんエッセイ 参議院議員 白川よう子

この原稿が載る民報が届く頃には、おそらく初質問の日程もようやく決まってい

るはず。国会のルールに翻弄されながらも、その中で筋をとって頑張る議員団の中であくさんのことを学んでいます。

一番驚くのはやはり委員会などの日程が決まるのが



遅いこと。そして急に決まること。参議院は基本、火曜日と木曜日に委員会審議が行われますが、その決定は今回で言えば14日金曜日に委員会の理事会が開かれ、次週の18日火曜日に厚労委員会が開かれ大臣の所信表明が行われることが決まりました。ということは次に委員会が開かれるのは木曜日だという察しがつくのですが、それはまだ決まっています。よって、大臣の所信について私の委員会での質問（初質問）も未だ日程が決まっていない

です。県議会との違いとしても驚くのは、どんな法案がいつ提案されるかわからないということ。県議会では1週間くらい前には、次の議事にかかる議案の説明がありました。国会はいつ出てくるのかわかりません。出てきたと思ったら2日後くらいの委員会や早や審議。ほとんど法案の審議もないまま強行採決などが繰り返されることも。

それだけに委員会の審議は本当に大切です。しかしその委員会での発言時間を「多党化」を理由に、無所属の1人会派の分を短縮すると言い出し、それが波及して所属委員が1人しかない会派も短縮の流れになりつつあります。1人であっても国民から付託された議席としての重みは同じです。

うたごえ広場（新婦人高松コースエプロン）11月2日（日）高松市福岡町自治会館で開催されました。えぶるんの団員が「アンジュラスの鐘」や「願い」の合唱を披露しました。女声合唱の優しい歌声でした。参加者はたくさん、曲が載っている歌詞カードから自分が歌いたい曲をリクエストしていきます。そのリクエストした曲をピアノやギター伴奏で団員と参加者全員が歌っていきます。歌詞カードは、うたごえ運動で広まった歌「青い空は」「折り鶴」など平和を願う歌や、文科省唱歌、フォークソングなどジャンルも様々



「うたごえ広場」を開催

香川県下の地方議会での「再審法改正を求める意見書採択」の取り組みでは、三木町・直島町・小豆島町・土庄町・善通寺市・綾川町・観音寺市の七自治体で採択。香川県議会は継続審議となっています。引き続き意見書採択の議会要請、署名運動、

地元選出の国会議員要請をすすめていきます。香川県本部大会を十一月二十九日（13時〜16時）ミライエで開催します。冒頭には、「倉敷民商弾圧事件・瀬屋裁判の早期解決をめざして」について則武透弁護士による講演があります。

香川プライドパレード

性的マイノリティ（LGBTQ+）の性や生き方の多様性への理解を広げる「香川プライドパレード2025」が3日、高松市で開かれ、約100人がJR高松駅前などを行進しました。創立30周年を迎えたプライド香川の主催。パレードは県内では3回目、高松市では初開催です。



トークイベントでは、県内の学校でのブレザーやスラックスなどジェンダーレス制服などについて一般社団法人教育コミュニティの三木瑞恵氏と、あしたプロジェクトの谷昂頼代表、福井瑞穂副代表が語りました。「地方の状況と当事者の居場所づくり」をテーマに、クラウド香川の藤田博美代表、三豊にじいる研究会の田中昭全共同代表、えにしの大澤こう代表、谷氏が話しました。

高松市や市・県教育委員会が後援し、23団体が協賛、10団体が協力し、会場では10を超えるマルシェや展示がありました。参加した県内の10代の女性は「自分の住む県にもLGBTQ+を前向きに思う人がこんなにいるんだ」と話しました。

高松駅で再審法改正を訴え 国民救済会香川県本部

日本国民救済会は、議員立法による再審法改正を実現させようと全国でとりく

みを強めています。香川県本部では十一月一日、高松駅前宣伝行動を【3面に】

シリーズ「いまマルクスが面白い」①

日本民主青年同盟香川県委員長 藤沢 直人

「髭もじゃの人の本」を一緒に読みたい

青年が目にする「赤本」。自分が担当している30代後半の日曜版読者が、紹介されている赤本について「気になったんだけど、これ何？」と聞いてきた。私は、「資本論という本の解説本だよ」と紹介し「資本論を知ってるか？」聞くと「髭もじゃの人が書いた本やろ」と、写真でマルクスの顔は知っている様子だった。今、全国的に資本論の核心を解説している赤本が多くに注目されている。先月、私が駅頭で対話した青年も、資本論や科学的社会主義に興味を示し、1時間ほど対話がはずみ最終的

に民青に加盟するという経験もあった。相手の方から「使用価値？おもしろいね。気になってる」と赤本への興味をしめしてもらって、私に「赤本の魅力を伝え、購読してほしい」との思いが湧いた。

そこで私は、資本論は資本主義の経済システムを説いた本だと簡単に紹介。「たとえば10,000円の上着と10,000円の自転車。使用用途は違うのに値段が同じなのは何故か？」と問いかけながら、商品の価値について説明した。商品の価値は、その商品にどれだけ労働者の働いた時間がこめられているかで決まる。今度は、この著一つとってしても100円の著と1000円の著がある。使用用途（使用価値）は同じな

のに値段は違う。何故か？そこにはどれだけ多くの労働力がこめられているかの違いで決まる」と説明した。

すると相手の青年は「なるほど。使用用途が同じあるいは違っててもその商品の値段が、労働の量で決まるとは知らなかった。物事をこうやって考えて、ことの根本を突き詰めるのは面白い」と言う。

この資本論を分かりやすく説明しているのがこの赤本と伝えらる「面白そう。読んでみようかな。来月会うとき買おう。」「一緒に読もう。一人で読むより二人でやった方が理解もしやすい」と言い、赤本購読の予約をし、ともに活動できる日が来ることを願いつつ、私の心は踊った。

